



法人合同行事 ふれあい祭



法人合同行事 球技大会



瀬野三施設 ふれあいコンサート



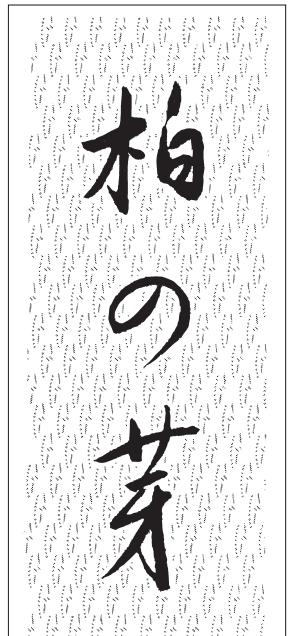
瀬野三施設 あいサポートアート展



瀬野三施設 もちつき



柏の実苑 年忘れクリスマス会



発行所
社会福祉法人

柏 学 園

広島県安芸郡府中町
青崎東7-12
TEL (082) 282-6500

発行人 **米川 晃**

印刷所
株式会社 中本本店
TEL (082) 221-9181

迎 春

謹んで新春のお慶びを申し上げます

旧年中はいろいろとお世話になり、心よりお礼申し上げます。

年が明けて二〇二六（令和八）年 迎えた六〇年に一度の「丙・午（ひのえ・うま）」の年、
「情熱的で熱い意志を持ちながらも、激しさや変化を伴う」年と、されているとのこと。

新年にあたり、良質な支援環境をめざして、日々の活動を工夫し、いろいろ豊かな日常生活
や日中活動支援、療育支援活動を行ってまいります。

皆様のこの佳き一年が、健やかで幸せな一年となりますようお祈り申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願ひします。

令和八年 初春

社会福祉法人柏学園 理事長 **米 川 晃**

幼児発達支援センター

柏 学 園

(所在地)

安芸郡府中町青崎東
7-12

TEL (082) 282-6500

主に就学までの子どもたちが通って来ています。子どもたち一人一人の気持ちと発達段階を充分に理解し、ご家族の方々との話し合いを大切にし、親子共々希望と元気が出る療育を目指しています。



新年を迎えて

柏学園長 林 しのぶ



明けましておめでとうござい
ます。

今年もようろしくお願ひ申し上げます。職員室で仕事をしていると、お子さんたちのにぎやかな話し声や楽しそうな笑い声、不愉快そうな泣き声や怒った時の悲鳴に近い叫び声などがよく聞こえきます。みんな今日も頑張っているな！と思います。子どもって泣いたり笑ったり、怒つたりぐずぐず言うのがお仕事です。一ヶ月、二ヶ月と時が流れしていく中で、声の出し方や強弱のつけ方、誰かに向かって訴えるような声や我を忘れて激しくなつていく声など、変化がみられていきます。誰の声なのか、顔をみなくてだいたいわかるのですが、顔がみたくて、ついつい職員室から出て行つて確認してしまいます。今どんなことが楽しかったのかな？なんで怒ったのかな？何が嫌だった？勿論たずねても答えが返つてくることは少ないので、周りのお子さんたちの様子をみたり、お子さんとその場を共有していた先生に聞いてみて、「なーるほど」と思うこともあります。言葉にはならない声の奥の奥にある、お子さんの気持ちに気づき、感情の流れに寄り添つて、その時々を共有していきたいのです。この一年も、お子さんたちから力を頂きながら、日々の療育を大切にしていきたいと思います。

明けましておめでとうござい
ます。

障害者生活支援事業
柏 の 実 苑

(所在地)

安芸郡府中町青崎東
7-12

TEL (082) 282-6500

23才から68才までの知的な発達に障害のある方達が、社会参加や自己実現を目指して家庭から通い、職業指導・生活援助を通して日中活動の場を提供しています。



活気ある一年に

柏の実苑長 角田 芳郎



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて令和八年は午（うま）年です。午は力強く駆ける姿から、活気や躍進の象徴とされています。私たち柏の実苑も、この一年の抱負として、力強く前進し、皆様に「幸せが駆け込む」よう活気ある毎日を送つていただきたいと思っています。利用者の皆様が、安心して、そして安全に過ごせる環境づくりを最優先に考え、その上で、日々の作業や活動を通して、「やりがい」を感じられるよう注力いたします。

そして何より、「柏の実苑に来ると楽しい」「笑顔になれる」と思つていただけるような、活気あふれる場を目指します。皆様の生活がより豊かで実り多きものとなりますよう職員一同、心を込めて支援してまいります。

最後に利用者お一人おひとりが、住み慣れた地域で、その方らしい豊かな生活を送ることがいつまでも続けられるよう切に願つております。本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

障害児居住施設
瀬野川学園
知的障害者居住施設
安芸柏の実苑
知的障害者居住施設
瀬野柏の実苑
(所在地) 広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL (082) 894-8958

知的な発達に障害のある児童や成人の居住する施設です。児童は基本的生活習慣の自立、将来の社会的自立をめざし、成人は様々な活動を通して社会参加をめざしています。また、年齢を考慮した体力維持の活動にも努めています。



お互いさま

瀬野柏の実苑長 **竹本 孝志**



新年あけましておめでとうございます。

出来事があつたのと同時に、目の前のことによく

事が精一杯だった一年だったよう思います。今年はきちんと目標を定め、それを目指した過ごし方が出来るようにしたいと感じる年越しとなつてしましました。

私は小さなころから親に「人様に迷惑をかけないよう生きていきなさい」と何度も言われながら成長してきました。そのように生きてきたかは疑問がかなりあります。しかし私世代の日本人の親の多くはそのように子供に伝えてきたのではないか。

ある雑誌にこんな事が書いてありました。日本では子供に対し、先ほどのように伝えていく親が多いですが、インドでは「人はたくさんの人には迷惑をかけ、助けてもらいながら生きていくのだから、あなたも人のことを許してあげながら生きていきなさい」と教えられるそうです。国の中文化によって物事の考え方や捉え方は違いますが、日本でも同じような考え方がありますが、日本でも同じような考え方があります。

「お互いさま」
誰にだつて出来ること、出来ないことがあります。出来ないことを誰かに支えてもらひながら、想像良い言葉、考え方だと思います。年頭を機に初心に返り、今年一年新たな気持ちで頑張つていきたいと思います。本年もよろしくお願ひいたします。

障害者生活支援事業
安芸柏の実苑通所部
(所在地)
東広島市志和町大字志和
堀字下十日市山337
TEL (0824) 33-5690

知的な発達に障害があり、主にグループホームなどで地域生活をしている20名に、日中活動の場を提供しています。「志和福祉ランド」(東広島市)において、農耕・軽作業・洗濯などの活動を通して、社会参加や自己実現をめざしています。



安芸柏の実苑通所部 管理者 **中島 むつみ**



令和七年度より、居住系サービスである障害者支援施設や共同生活援助においては、各事業所を入れた「地域連携推進会議」を開催すること、会議の構成員が事業所を見学する機会を設けることが義務付けされました。

当法人も十一月に会議を開催し、構成員の自己紹介(地区協・民生委員・保護者・利用者・施設長・相談員・支援員)、会議の主旨・目的の説明、各事業所の概要説明を行った後に、各事業所の見学を行いました。

見学後の感想・意見交換では、初めてグループホームを見たけれども、地域で暮らすことは良いことである。何もかも支援するのではなく、少しでも出来る事は自分で行い、出来ない事を支援する。共に行なうことが利用者の喜びや生きる力に繋がっていると思う。入浴順や掃除担当を表示する等視覚的工夫もされており、世話人さんが献身的に支援している様子が分つた。また設備に関するご意見では、日頃気付かなかつた点についての指摘があり、貴重な外部の視点を頂きました。これらの声を今後の運営に活かし、より良いグループホームになるよう努めてまいります。

会の最後に、利用者に感想を聞くと、「今日はグループホームを見に来てくれてありがとうございます」と言いました」と言い、構成員さんより「嫌じやなかつた?」と聞かれ、「嫌じやなかつた。また来て下さい」と笑顔で応えていました。この笑顔を見て、会議を行つた意義ややりがいを感じました。

より良い暮らしにするために

家庭訪問

柏学園では、前期と後期の年に二回家庭訪問を実施しています。十月の第四週は家庭訪問週間でした。ご家庭での様子を見せていただくことで、お子さんにとっての安心できる環境や好きな遊び、落ち着くきっかけを知ることができ、園生活でも生かしています。また、安全面について確認し合うことで安心して過ごせる環境作りを考える大切な機会だと感じています。保護者の方とゆっくりお話しできる貴重な時間として、私も毎回学びをいたいでいます。

家庭訪問では、ご家庭に着くと、保護者の方とお子さんが出迎えてくれ、お子さんは少し驚いた様子で緊張している表情も見られました。最初は戸惑いながらも保護者の方の膝の上で過ごす中で段々と落ち着いた様子でした。まずご家庭での様子を伺いました。以前は寝るまでに時間がかかり、保護者の方も悩まれていたとお聞きしましたが、今はお気に入りの毛布を使うことで落ち着いて眠れるようになつたとのことでした。その毛布を見せてもらい、お話を聞く中で本児が生まれたときからずっと使ってきた物で、長い間そばにあつた安心感があるのだと感じま

柏学園 目崎 結衣

全国児童発達支援施設運営協議会(広島大会)に参加して

柏学園 原田 道子

十一月二十日・二十一日に広島市で開催された第二十二回全国児童発達支援施設運営協議会に参加しました。【「こどもまんなか社会』を考える「障害児支援における基礎・基本を考え、今日的課題を探る」というメインテーマのもと、障害児支援、社会的養護、意思形成支援についての講演や分科会が行われました。初日は三名の講師による講演が行われました。上智大学名誉教授・大塚晃先生は「障害児支援の専門性を考える」をテーマに、実践を踏まえながら障害児支援で大切にすべき構えや、専門性向上ための要素などについてお話しされました。子どもの意思が尊重されていること、そしてエビデンスに基づいた支援の重要性を改めて学ぶことができました。分大学福祉健康科学部特任教授・山梨県立大学大学院人間福祉学研究科特任教授の相澤仁先生は「社会的養護における子どもの権利擁護とその支援」について、社会的養護のもとで生活をしている子どもたちとの経験に加え、意見表明(アドボカシー)に関する基本的知識を取り組みについてお話をされました。子どもが安心して自分の意見を表現できる関係性や環境づくりの大切さを学びました。また、弁護士で子どもアドボカシーセンター広島代表・子どもの権

利条約プロモーターライブ講座主宰の定者吉人先生は「障がいのある子どもが、自分の思いを自分なりに自由にあらわす権利、その支援のありかた」をテーマに、障害のある子どもも、自分に影響のある、あらゆることに自分の思いや願いをもつており、それらを保障するために意見表明支援、意見形成支援が必要であること、またその基本となる「子どもの権利条約」について分かりやすく解説されました。

二日目は「意思形成支援について考える」をテーマとした分科会に参加しました。二つの実践報告をもとに行われたパネルディスカッションでは、入所施設という集団生活の中で、一人ひとりの思いをどう汲み取り、日々の業務の中でどのように応えていくかという難しさについて意見が交わされました。

大会全体を通して共通して議論されていたのは、子どもの声に耳を傾けているか、子どもの思いが汲み取られているか、そして意志が尊重されているかということでした。今回の学びを踏まえ自らの療育を振り返りながら、「子どもの最善の利益を追求していく」という視点を忘れず、今後の支援に取り組んでいきたいと改めて感じました。

笑顔あふれる、ふれあい祭

柏の実苑 川崎 肇

年忘れクリスマス会

柏の実苑 藤賀 景子

十一月八日にふれあい祭が開催されました。例年は十月に行う行事ですが今年度は暑さを考慮し、一ヶ月遅れでの開催となりました。例年ふれあい祭のお知らせが出る頃にお手紙が出ないということで、利用者の皆さんからは「今年のふれあい祭は?」「いつになるの?」という問い合わせもありましたが、十一月に行うことを伝えると、皆さん安堵されとても心待ちにしてくださっている様子でした。

今年もオープニングは柏の実バンドが演奏するということで、七月から練習を始めました。一年ぶりの器楽でしたが、皆さん張り切つてくださつており、楽しく練習を行うことが出来ました。今年はバンドメンバーが新しい楽器にチャレンジしました。最初はなかなか上手くいかないこともありましたが、練習を頑張つてくださりどんどん上達していました。当日、リハーサルが始まり緊張した面もちのバンドメンバー。普段の練習とは違う緊張感の中、本番を迎えるました。演奏の序盤はバンドメンバーの表情も固いようを感じましたが、演奏が盛り上がるにつれ少しづつ表情が和らいでいき

ました。演劇が終わる頃には晴れやかな笑顔になっていました。日々の練習の積み重ねや演奏の成功体験でバンドメンバーの自信につながったのではないかと思います。

私は当日、仮装カラオケ大会で審査員と司会を受け持ちました。今年度は用意した席だけではなく、らせん階段まで沢山のお客様が来てくださいました。演奏が終わると、皆さん大賑わいの中でカラオケ大会を行うことが出来ました。参加者の皆さんが観客の多さに緊張されるかと心配していましたが、歌うことが大好きな方々の集まりの為か、物怖じすることなく心をこめて熱唱されました。歌われる方と皆さん堂々と歌いきつておられました。カラオケ大会の最後にはサプライズで皆さんのが大好きな「手のひらを太陽に」を合唱しました。その場にいた全員で歌つたり、歌つたり、踊つたりと思い思いに歌を楽しんでいました。また、広島商業高校の方はハンドベルの演奏をして下さり、綺麗な音色に会場全体が魅了されました。

R.I.E. 方の合唱では、素敵な歌声だけではなく、一緒に歌うとの楽しさを味わっていました。利用者さんもR.I.E. 方が印象的でした。また、毎年ご参加くださるお客様からは「今年も楽しんでいました」というお言葉もいただきました。

R.I.E. 方の合唱では、素敵な歌声だけではなく、一緒に歌うとの楽しさを味わっていました。利用者さんは三つのグループに分かれ、ダンス、手話、歌を披露しました。ダンスグループは、ポンポンを持ち『ジャンボリミッキー』の曲に合わせて元気よく踊りました。手話グループは、手話をしながら『ひまわりの約束』を歌い、歌グループは『きらきら星』『赤鼻のトナカイ』を自分たちで作った楽器を鳴らしながら歌いました。私は手話グループの担当をさせていただいたのですが、

十二月二十日、安芸区民文化センターで年忘れクリスマス会が行われました。東南ロータリークラブの方、R.I.E. 方、広島商業高校の方をお招きし、総勢八十名と例年より多くの方々に参加していただきました。会場に到着した利用者の皆さんはウキウキ・ワクワクされており、会の始まりが待ち遠しい様子でした。

乾杯の合図で会が始まると、名札を作り、テーブル毎に自己紹介をしました。自分のことを知つてもらおうと一生懸命自己紹介をしている姿が印象的でした。また、毎年ご参加くださるお客様からは「今年も楽しんでいました」というお言葉もいただきました。

お話をして和やかな雰囲気になつたところで、次は出し物です。利用者さんは三つのグループに分かれ、ダンス、手話、歌を披露しました。ダンスグループは、ポンポンを持ち『ジャンボリミッキー』の曲に合わせて元気よく踊りました。手話グループは、手話をしながら『ひまわりの約束』を歌い、歌グループは『きらきら星』『赤鼻のトナカイ』を自分たちで作った楽器を鳴らしながら歌いました。私は手話グループの担当をさせていただいたのですが、

今年も皆さんのご協力のおかげで、笑顔あふれる楽しいふれあい祭となりました。ご多用の中、ご足労頂きありがとうございました。

ふれあいコンサート

九月二十七日、東広島芸術文化ホールぐらにて、あいサポートふれあいコンサートが開催され、瀬野川ファミリー・バンドも出演しました。このコンサートは障害のある方が舞台芸術活動の参加を通して生活を豊かにすると共に、県民の障害への理解と認識を深めることを目的として開催されました。

私は、きらきらコンサートや、その他のステージに出演し、ファミリーバンドの紹介をする際には、いつも伝えていることがあります。それは「音楽が大好きな気持ちに障害の有無は関係ない」ということです。今回のがいサポートふれあいコンサートに参加させて頂き、改めてそれを実感することが出来ました。

私は、緊張していましました。リハーサル前、メンバーの皆さんは緊張よりも初めての場所にやつて来たウキウキやワクワクといった職員である私は少し緊張していました。リハーサル前、メンバーワークの表情をされており、それを見て安心させてもらえたのを覚えていました。ただ、いざリハーサルのために大きなステージに上がり、まぶしい照明を浴びると、いつもメンバーワークの樂器で演奏をしてはいましたが、緊張が伝わってきました。中にはあまりの照明のまぶしさや、客席の広さと暗さに驚いて後ろの方へ

九月二十七日、東広島芸術文化ホールぐらにて、あいサポートふれあいコンサートが開催され、瀬野川ファミリー・バンドも出演しました。このコンサートは障害のある方が舞台芸術活動の参加を通して生活を豊かにすると共に、県民の障害への理解と認識を深めることを目的として開催されました。

私は、きらきらコンサートや、その他のステージに出演し、ファミリーバンドの紹介をする際には、いつも伝えていることがあります。それは「音楽が大好きな気持ちに障害の有無は関係ない」ということです。今回のがいサポートふれあいコンサートに参加させて頂き、改めてそれを実感することが出来ました。

私は、緊張していましました。リハーサル前、メンバーワークの表情をされており、それを見て安心させてもらえたのを覚えていました。ただ、いざリハーサルのために大きなステージに上がり、まぶしい照明を浴びると、いつもメンバーワークの樂器で演奏をしてはいましたが、緊張が伝わってきました。中にはあまりの照明のまぶしさや、客席の広さと暗さに驚いて後ろの方へ

瀬野川学園 緑 美緒

行つてしまう方もいました。さあ、本番はどうなつてしまうのでしょうか：？

本番のステージ。さすがメンバーの皆さん。これまでの経験を活かしながら、精いっぱいの演奏。素晴らしかつたです。客席には瀬野キャンパスからの応援団（見学者）も居たので心強かつたと思います。

他団体の演奏演技もどれも素晴らしい、脳性麻痺のある方々のコーラス、難聴者による和太鼓演奏、車椅子ダンス等、客席から見ていて色々な刺激を受けました。やはり、音楽を好きな気持ちに障害の有無は関係ないと感動をしました。

ふれあいコンサートに出演したことで、自分たちが大好きな音楽を沢山の方に見てもらえたことはファミリーバンドメンバーにとって初めての会場。大きなホール。職員である私は少し緊張していました。リハーサル前、メンバーの皆さんは緊張よりも初めての場所にやつて来たウキウキやワクワクといった職員である私は少し緊張していました。リハーサル前、メンバーワークの表情をされており、それを見て安心させてもらえたのを覚えていました。ただ、いざリハーサルのために大きなステージに上がり、まぶしい照明を浴びると、いつもメンバーワークの樂器で演奏をしてはいましたが、緊張が伝わってきました。中にはあまりの照明のまぶしさや、客席の広さと暗さに驚いて後ろの方へ

法人球技大会

安芸柏の実苑 荒木 尚里

十一月十日、少し寒さも混じる秋晴れの中、令和七年度法人合同球技大会が、ワクトリーパーク揚倉山で行われました。

年に一度の球技大会は、普段なかなか法人内の他施設と一緒にになる機会がないため、利用者の皆さんが楽しみにされている行事の一つです。各施設の代表として練習を頑張り、本番に臨みました。ティーボール、グラウンドゴルフ、フライティングディスク、ボウリングの各競技に分かれ熱戦が繰り広げられました。

私は今回ボウリングの引率でした。それぞれの施設が投げる間、「○○さん頑張ってー！」おしかったねー」など声援と拍手を送り合つたり、お互いのチームの投げたボールを拾つて渡してくれた利用者さんは、渡すときには「おしかったよー、頑張って」「大丈夫よー」など笑顔で声をかけていました。ボウリングは本来一人で投げる競技ですが、周りの応援と拍手によって一体

また、一番最年長の利用者さんは、長年培ってきた腕前で、力強くピンを倒され、笑顔のガッツボーズをされていました。

他の競技においても、グラウンドいっぱいに皆さんの白熱した声が秋の山々に響き渡り、盛り上がりっていました。好成績を出すと、飛び跳ねて全身で喜ぶ姿がとても印象的で、見ているこちらまで嬉しくなりました。

利用者、職員とともに利用者の皆さんとのスポーツを通して、仲間との交流と共に、親睦を深めあい、充実した一日となりました。

来年も参加できるよう、日々健康に元気で過ごしていきたいと思います。



あいサポートアート展

瀬野柏の実苑 三原 奈苗

この度、瀬野キャンパス利用者の作品が、あいサポートアート展に選ばれました。日頃から利用者の製作活動に寄り添っている身として、知らせを受けた時、驚きと何よりも嬉しい気持ちになりました。瀬野キャンパスで行われている絵画活動では、少人数制で行っています。利用者の方々で技法やスタイルは様々ですが、「ありのままの表現」を大切にし、自由でのびのびと作品を作られるように支援しています。また、選ばれた作品は誰かに評価される事を期待して描いたわけではなく、描くことが好きという、純粋な気持ちで描いたことにより、自然でのびやかな表現になつているように感じます。

瀬野キャンパスでは、絵画二作品、習字五作品があいサポートアート展に選ばれました。

展示会には、作品が選ばれた利用者の方々と一緒に見学へ行きました。会場に入った瞬間、目に飛び込んだのは、色づかいの大胆な作品、独特の視点で描かれた作品の数々。日々の生活の中から生まれた

感性豊かな作品が展示されていました。飾られた作品を利用者の方が嬉しいように見つめている姿を見て、改めて、一緒に見学に行くことが出来て良かったと思いました。日ごろ、展示会は多くありません。一人ずつ作品の前で写真を撮る際は、少し照れくさそうな笑顔も見られましたが、自分の作品や仲間たちの作品を見ながらどこか誇らしさを感じました。今回のあいサポートアート展を通して、作品は技術の高さではなく、「その人らしさ」を感じる事が大切だと思いました。それが持つ個性や視点がそのまま作品になり、見る側にも新しい発見や気づきを与えてくれました。絵や字を書く楽しさや表現する喜びを、利用者の方が改めて感じる大切な機会にもなつたと思います。そして、支援者としても、利用者の方の可能性が広がつて、いく瞬間に立ち会えたことは、大きな喜びでした。これからも、利用者の方々の小さな挑戦や思いを大切にし、一人一人が自分らしく輝ける場を作つていただきたいと思いました。

餅つき大会

瀬野柏の実苑 大園 隆史

『餅つきや 年の瀬告げる 杵の音』十二月十三日、瀬野の仲間たちが、賑やかに楽しく餅つき大会を行いました。

杵の大きさは、個人でもつける小さいものから、職員と一緒につく程の少し大きなものと様々です。餅つき場の傍では、かまどに火を入れ臼の用意をし、いつでも餅をつけるよう準備が着々とされ、いつ餅をつくるのかと気になり様子を見に行こうと近づく利用者もいました。餅つきが始まる前に係から「餅つき」や「鏡餅」の由来などの話を聞き、納得するだけでなく感心する人たちもいて、会場も盛り上がつていました。

餅つきの話が終わつたところで、杵を手にした瀬野の仲間たちがやつてきました。待ちに待つ餅つきの始まりです。学園から始まり、通所部、安芸柏、瀬野男子寮、女子寮という

く人。彼らは思う存分に楽しめたと思います。

ひとしきり餅をついた後で、ぜんざいが運ばれきました。ぜんざいも毎年の餅つき大会には無くてはならない食べ物です。一杯のぜんざいに「今年の餅つき大会は、よかつたなあ」と思いを馳せながらじっくりと食べる人、一杯では満足せずもう一杯いただき満足する人。ぜんざいを食べる時間も、それぞれの楽しみがあります。方があるようですね。ぜんざいをそれぞれ食べ終えたところで係から挨拶があり、今年の餅つき大会も終わりとなりました。

餅をつくたび「よいしょ！よいしょ！」と元気に声をかけたり、一生懸命餅をついたり、ぜんざいを食べたりと、いい日になつたでしょうか。

『もちつきや 世代を超えて絆結び 新たな年を共に迎えん』

今回の餅つき大会も瀬野の仲間達にとつていい思い出、経験に繋がつたのではと思います。

令和七年度 全国等表彰受賞者

今思うこと

好きなこと探し 柏学園 蓼原朋実

ここ数年、「趣味がほしいな」と思いつつも、なかなかこれだ！と思うものに出会えず、好きなこと探しが続いていました。そんな中、娘がマイメロディを好きになり、娘の推し活に付き合う日々が始まりました。最初は懐かしいくらいにしか思っていませんでした。がつたのですが、一緒になつてかわいいグッズを探している内に、私までしつかり夢中になつていました。ガチャガチャやくじがあると一緒にしたり、マイメロディに会いに行つたり：好きなものや思い出が増えていく楽しさを娘と共有しながら、親子で推し活を楽しんでいます。

六月に育児休暇から復帰し、久しぶりに柏学園の子どもたちと触れ合う日々。その中でまずは子どもたちの「好き！」を知ることから始めていきました。ペープサート・プラレール・エレベーター・絵描き歌：目をキラキラさせて楽しむ子どもたち。その姿を見て、子どもも大人も関係なく、好きなこと・夢中になれることがあるって素敵だなと改めて実感しました。そして自分の好きなことを受けとめ、共に楽しんでくれる人がいることも幸せなことだと感じています。これからも、柏学園の子どもたちの好きなことを一緒に楽しみ、子どもたちにとつても心地の良い関わりをしていきたいです。そしてプライベートでも娘と趣味を満喫する時間も大切にしていきたいです！

府中町	町長	寺尾	光司様
府中町町議会	議長	力山	彰様
府中町教育委員会	教育長	新田	憲章様
府中町社会福祉協議会	会長	小濱	樹子様
府中町青崎東女性会	会長	栗栖	孝子様
藏田ファイリング(株)	代表取締役社長	田戸	亨様
瀬野キャンパス家族会様	宗盛	幸江様	
大門	清春様		
米川	晃様		

編集後記

計報

瀬野川学園、安芸柏の実苑
苑長 香川和己氏が令和七年
十一月七日に逝去されました。
ご冥福をお祈り致します。

大門 清春 様
米川 晃 様

藏田ファイリング(株)
瀬野ヤンバス家族会様
代表取締役社長 田戸
亨様

府中町青崎東女性会

教育長 新田
憲章様

府中町町議会 町長 寺尾 光司
議長 力山
彰様

ご協力いただいた関係団体

新しい年を迎える、新たな思いを胸に頑張っていきたいと思っております。本年も、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。